

令和4年8月31日

# 緑小だより

9月号

横浜市立緑小学校



ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

Mail : y3midori@edu.city.yokohama.jp

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

リスタートしていこう!!

学校長 能城 順一

36日間の長い夏休みを終え、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。保護者の皆様、令和4年度の夏休みはどのようにお過ごしになられたでしょうか？新型コロナウイルス感染症の感染は収まることなく感染者数の高止まりが続く中ですが、3年ぶりの行動制限のない中での夏休みとなりました。毎日の報道を見ておりますと、多くの都道府県で過去最高の感染者数が報じられるとともに、賑わう観光地の様子も報じられる等、何か複雑な心境となる時が多かったように振り返っています。また、酷暑に加え、東北や北陸地方で続いた大雨・洪水、年々異常気象と言われる状況が悪化しているとも感じられました。私個人の話をしめすと、今年の夏休みこそ「孫とゆっくり」などと考えていましたが、千葉に住み2人目の出産間近の娘の家族とは会うことをできるだけ控える状況となり、この長く続くコロナ禍を恨めしく感じた夏休みともなりました。

そんな夏休みでしたが、私の心を励まし続けてくれたのは、甲子園で熱戦を繰り広げてくれた高校球児たちの奮闘ぶりです。47都道府県の代表校が全て出場できた今回の全国高校野球選手権大会、いわゆる「コロナ学年」の選手たちが繰り広げる熱いプレーには、心を打たれるばかりでした。特に3年生の球児たちの奮闘ぶりは、1年生の時には大会そのものが中止となっているので、悔しい思いをした先輩たちの思いを背負ってプレーする球児の様子も伝えられたのでなおさらでした。私が感心したというよりも「凄み」を感じたのは、甲子園に集う球児たち、また関係者の「志の強さ」です。3年に及ぶこのコロナ禍、チームで練習する時間の縮小や練習環境の悪化という厳しい状況は、どの学校においてもあったことでしょう。そのような厳しい状況の中でも、「限られた環境の中でできる最大限の事をやっけていく、決してコロナのせいにはしない」という「強い志」が感じられる個々の、そしてチームとしての質の高いプレーには、心から驚かされ、且つ励まされました。そして、悲願の東北勢初の全国制覇を成し遂げた仙台育英高校の球児たちの姿は、今なお震災の傷跡が残る多くの被災者の皆さんへの大きな励ましともなったことでしょう。今年のコロナ禍で開催された「奇跡の甲子園大会」は、多くの人々を励まし、歴史に残る大会として語り継がれていくことでしょう。

8月29日の学校再開後の最初の朝会では、私は、上の甲子園大会の話をした後に、「気持ち新たにリスタートしていこう！」という話を、全校の子どもたちにしました。「リスタート」には、「今の現状をしっかりと受け入れた上で、できる限りのベストを尽くす」という意味があります。私たち教職員も、子どもたちも、コロナ禍であっても奮闘し続けた高校球児の熱い思いを見習い、8月26日から令和4年度前期の後半をリスタートさせました。私が目指す学校、目指す思いは、ずっと変わりません。保護者の皆様・地域の皆様と共に緑小学校を「ありがとうにあふれた学び舎」としていくことです。保護者の皆様・地域の皆様、引き続き緑小学校への温かいご支援を賜りますようお願いいたします。